

地域の子どもにおはなしを届ける、読み聞かせボランティアの育成

ねらい

最寄りの小学校に読み聞かせボランティアが入っていないことを知り、図書室業務担当として主催事業を企画した。

- ・地区の小学校に読み聞かせボランティアに行くことができる
- ・自館でのおはなし会開催を担える

人材の育成

経緯

令和元年～4年度に行った「絵本読み聞かせサポーター講習会」から、読み聞かせボランティアサークル「おちのこおはなし会」が令和4年に8名で発足した。

講座内容

「絵本読み聞かせサポーター講習会初級」

（令和6年6月2・16・30日 全3回、参加：13名）

引き続き一緒にボランティア活動をしてもらえる方を求めて開催した。4名がおちのこおはなし会に加入した。



参加者の声

絵本の持ち方、めくり方から始まり、具体的に教えて下さりとても参考になりました。今後のボランティア活動で活かれます。地域の公民館でこんなステキな講座が開かれていることに驚きました。本の種まきですね！読み聞かせの時に絵が語るのだと分かりました。幸せな3日間でした。

「わらべうた講座～肉声もたらす繋がり～」

（令和7年6月1・8・15日 全3回、参加：15名）

おはなし会を会員だけの力で開催出来るように、わらべうたのスキルを身に付けるべく開催した。一般からの参加も二人いた。



参加者の声

★手や体にふれる距離感やふれ合い方が、心をやさしくしてくれました。子どもに必要なことだと思いました。
★楽しく笑いながら学べて有意義な時間だった。大人の脳トレにも使えるかも（?!）

成果

「越智小学校朝読書『公民館読み聞かせ』」

（令和7年5月21日～令和8年3月4日 全17回予定）

千葉市立越智小学校の1・2年生と特別支援級で読み聞かせをしている。前年度末に今年度の年間日程計画を学校と相談し、読む本も講師と予め計画し練習している。



「おたのしみおはなし会」

（令和7年7月31日 2部制、参加：のべ14名）

6月のわらべうた講座を活かし、会員がわらべうた「くまさん」を行い、パネルシアターや参加型絵本も取り入れた。



参加者の声

★あながすとあひるがおもしろかった
★いろいろなお話があって、楽しかったです!!

まとめ

講座で学んだことを活かし、集団への読み聞かせに適した本を、地域の子どもに手渡すことができている。小学校の保護者ではない公民館講座の受講者が、学びを地域に還元していることが特色である。また、子どもとの触れ合いでおちのこおはなし会のメンバーも喜びを得ている。

課題

講座の講師陣がサークルの定期活動に参加し読み聞かせのアドバイスをして下さるので、質の向上に繋がっている。今後も、会員が「読み聞かせの本質」を共通理解し、維持していくことが課題となる。

地域をつなぐ「檣橋茶話会」

概要

交通の便が非常に悪い当館は、年々、サークル活動への参加者は減少傾向にある。それでも檣橋地域をつなげる要（かなめ）になって、「檣橋の輪」を築き、広げていきたいと考えている。令和6年度はオンラインの講座も10講座開設して、檣橋公民館に来づらい方への門戸も開いているが、やはり、檣橋地域の方に公民館に来ていただきと考へ、「檣橋茶話会（全9回）」を開催した。コロナ禍前から開催を願っていたが、危機管理上開催できず、やっと実現した講座だった。

講座内容

檣橋地区の高齢者（75歳以上）の方に憩いと交流の場を提供して家に引きこもりがちな方々に外出するきっかけを作ることと、公民館の取り組みについて理解を深めてもらうことを目的として実施した。地域の民生委員さんと連携し、普段あまり公民館とは縁のない方への声掛けや、飲み物やお茶菓子の準備、会の進行等にご協力いただいた。医療機関が休みで通院の無い木曜日を中心とした開催や、昼間の歩きが危険な猛暑の7・8月は開催しない等の配慮も行い、全9回、当館の特徴を生かした以下のような内容の茶話会を実施した。

【各回の内容】

- 第1回** 令和6年5月16日(木)
- ・顔合わせ、檣橋公民館の紹介
 - ・交流会
 - ・やってみたいことの調査

参加者
:8名



- 第2回** 令和6年6月20日(木)
- ・公民館長とクラフトバンドで毬を編んだり、折紙を折ったりする
 - ・交流会

参加者
:7名



- 第3回** 令和6年9月19日(木)
- ・公民館定期サークルのフラダンスYouTube動画視聴とフラ体験
 - ・交流会

参加者
:6名



- 第4回** 令和6年10月17日(木)
- ・映画「サクラサク」（千葉市生涯学習センター所有）視聴
 - ・交流会

参加者
:8名



- 第5回** 令和6年11月21日(木)
- ・公民館文化祭を録画した動画の視聴
 - ・交流会

参加者
:8名



- 第6回** 令和6年12月19日(木)
- ・公民館主催のクリスマスコンサートの動画視聴と鈴ふりの徒手体操
 - ・交流会

参加者
:9名



- 第7回** 令和7年1月24日(金)
- ・公民館主催のフレイル予防改善・体験講座に参加
 - ・交流会

参加者
:3名



- 第8回** 令和7年2月20日(木)
- ・公民館が招聘した檣橋笑輪寄席（「錦の袈裟」・「七度狐」）参加
 - ・交流会

参加者
:8名



- 第9回** 令和7年3月20日(木)
- ・振り返りと来年度への抱負、来年度やってみたいことの調査
 - ・交流会

参加者
:8名



【参加者の声より】

- ♣今までも檣橋公民館のことは知っていましたが、知り合いに今回の茶話会を紹介していただいたので、初めて来ました。一年間、楽しくすごせました。
- ♣公民館に来ることが外出するきっかけにもなり、ありがたかったです。とても有意義でしたし、毎回楽しみでした。
- ♣とても楽しかったです。公民館の他の講座にも参加してみたいです。サークル活動にも興味があります。
- ♣ここていろいろなご縁ができました。とても雰囲気が良い会なので、来年も参加したいです。

成果と課題

参加者は延べ65名（平均7.2名）。多くの方に集まっていたことは難しかったが、家に引きこもりがちな方が外出するきっかけ作りに貢献できたと感じている。また、当初は一部のグループで集まってしまう参加者もいたが、次第にグループの壁がなくなっていき、労い合う場面が増えていった。体調が悪くなった参加者を気遣ったり声掛けしたりする場面も見られ、茶話会を通して、新しい人と人を繋ぐことができた（檣橋の輪が広がった）と感じた。交通の便の悪い方のお宅に民生委員さんが寄って一緒に来館することもあったが、交通手段の無さはやはり課題となりそう。

各回の茶話会では、交流以外にも当館の主催講座や定期サークルに関連した「クラフト細工」や「徒手体操」「フレイル予防」「寄席」等の学習活動も組み込んだが、好評だった。公民館への理解も深まったのはもちろん、「他の講座にも参加してみたい。サークル活動にも興味がある。」等の声もあがっていたことから、生涯学習に向けた意欲も喚起することもできたと感じている。今後も、更にブラッシュアップした茶話会を企画していきたい。

大塚先生の算数体験ワークショップ



講座概要

敬愛大学では多彩な生涯学習講座を開催していますが、夏休みには小学生向けの講座も開講しています。今回の講座は、ふだんの学校の授業にはない「体験型ワークショップ」を通して、数の性質を学ぶ講座を開催しました。親子で参加できるゲームやパズルを通して様々な数の不思議を体験し、算数が好きになるきっかけや算数の楽しさ・おもしろさを見つける機会を提供しました。

ワークショップは、本学教育学部の大塚慎太郎准教授が指導する「算数教育ゼミ」の大学4年生が担当。『「495」に隠された秘密』『月までとどけ!!! ~紙おりおり大作戦~』の2本立てで、受講した児童全員が120分間、楽しみながら熱心に取り組みました。



3桁の数「495」を分解して
謎を解こう!



大学生のお姉さんが
複雑な計算をアシスト



廊下に広げた長い模造紙を
折りたたもう!

「495」に隠された秘密

『「495」や東京スカイツリーの高さ「634」の様な3桁の数を分解して計算をしていくと、謎が解けるんです。どんな謎が隠されているでしょう』と大学生が問いかけると、筆算や電卓で夢中になって謎解きを始めた子どもたち。

「やった、分かった!」と声を上げる様子には、一緒に参加した親御さんも大喜びでした。



月までとどけ!!! ~紙おりおり大作戦

『コピー用紙は何回折りたたむことができるかな』という問いかけに、実際に折ってみたら7回しか折れなかったと落胆する子どもたち。『ならば長い紙ならどうだろう』と廊下に広げられた紙でチャレンジしてみました。なんとこの方法を応用すると、月までの距離を測ることができると知り、子どもたちは大興奮となりました。



成果と課題

2年目となった「大塚先生の算数体験ワークショップ」は、今回も募集開始からすぐに満員御礼となり、関心の高さが伺えました。120分という長丁場にも関わらず、飽きることなく熱心に取り組む子どもたちの姿は、ただただ感心させられました。

1回の受講生を増やすことは難しいですが、保護者からは「他教科で同様の取組ができないか」「夏休み以外に開講することができないか」という声もあり、要検討です。

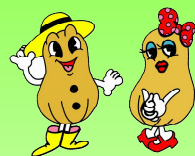
敬愛大学では、生涯学習講座を年間約150もの講座を設け、年間約1,000人を超える皆様にご受講いただいています。最年少は小学1年生、最年長は98歳です。敬愛大学生涯学習講座は、人生100年時代の「学び直しの場」「いきがいの場」「つどいの場」です。語学を中心に、教養講座、大学生の正課授業の公開、資格取得など様々な分野の講座を提供しています。詳しくは、地域連携センター生涯学習係(☎043-251-6364)にお問い合わせください。



KeLLくん

こうみんかんサポーター事業

(八街市中央公民館)



【サポーターって何?】

「こうみんかんサポーター」とは、もともと、公民館を利用されてきた方たちで結成され、「普段から公民館を利用させて頂いているから、何か恩返しをしよう。」ということから、平成24年に「緑のカーテン」を作成していただいたことに始まります。その後、不定期で障子張りや池清掃といった維持管理や、敷地内にお花などを植えるといった美化活動をされてきました。今では、その活動は定期的なものとなり、地域の活動拠点となる公民館において、社会活動に参加意欲のある市民を登録し、地域に根ざした活動に積極的に取り組んでいただくことで、市民との協働を図っています。

また、サポーターと市民との交流を通じて、普段、公民館を利用しない市民でも足を運びやすい、気軽に利用できる施設であることをサポーターのみなさんと共に目指しています。

公民館職員は、この活動が円滑に進められるようにニーズを吸い上げ、皆さんのバックアップを行っています。



【どんなことをするの?】

サポーターの皆さんは、公民館の敷地内にある緑地帯に、千葉県の花「菜の花」や八街市の花「ヒマワリ」「緑のカーテン」の植栽といった美化・環境活動や、時には障子の張り替えなども行います。緑のカーテンには、ゴーヤー、アサガオ、キュウリを採用し、夏の日差しを遮ってくれました。

4月から今年の夏にかけて、初めての取組として、公民館の後ろ側にある「芝生広場」を畑にして作物を育てるという試験的な取組を行いました。その作物とは、「落花生」「スイカ」「メロン」「カボチャ」「ジャガイモ」「夕顔」「ズッキーニ」「ミニトマト」「モロヘイヤ」です。これらの作物は見事に実り、サポーターの皆さんで「試食会」も行いました。

【もっと詳しく教えて】

それらの活動が発展し、サポーターさんを講師に迎え、市民を対象とした「初めての野菜づくり講座」を現在行っているところです。

これまでは、「公民館のために」だったものが「市民のために」と目的が広がり、講座を受講された方が「こうみんかんサポーター」へ加入するケースも見られるようになってきました。

今では、毎月1～2回の活動を行っており、それがサポーターの皆さんにとって生きがいとなっていることを大変誇らしく感じます。

(令和6年度活動実績)

【登録人数：13人(令和6年度末時点)】

【活動回数：17回】

【延べ活動人数：112人】

試食会



社会教育課「キラットスマイル」共催
小学生のみなさんとの収穫祭

【参加者の声】

- ・自分たちが育ててきた花がきれいに咲いたし、作物も良く育った。美味しかった。
- ・サポーターをしていなかったら、出会えなかった人と知り合えた。

法典！丁部

【内容・狙い】

法典IT部は、子ども食堂・子ども宅食と並行し、無償で長期的な教育・就労支援を行う学びの場です。子どもが楽しく学べる環境を前提に、プログラミングやWeb制作、デザイン、プランニング、AI活用、動画制作など多様な学習を提供し、IT職を将来の選択肢として広げます。地域課題の解決に参加できる場を設け、学びと社会貢献が循環する体験を重視し、収入格差に左右されない学びの拠点として未来のIT人材育成を目指します。

【参加者の声】

- ・建築にはちょっと苦戦したけど、またこのようになって（みんなが集まれて）良かった。（市内中1男子）
- ・チームワークの大切さに気付かされた。友達って大切なんだなあ、って思った。友達がいたから途中で投げ出さずに最後までやることができた。気楽な雰囲気が良い（市内中1男子）

【成果と課題】

- ・マイクラカップ2025「まちづくり部門」にチーム参加
- ・就活で使える実績としての作品づくりができるようになってきた

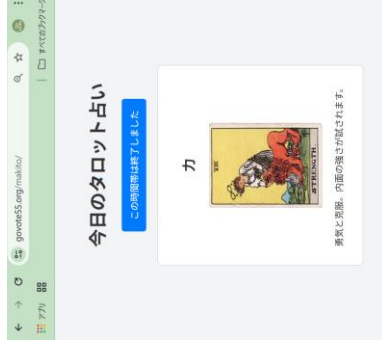
IT部の大きな課題は、学習に必要な十分な性能を備えたレンタル用パソコンの不足です。子どもたちが実践的なスキルを学ぶには、高スペックの機材が欠かせません。また、活動を継続・拡大するためには指導にあたる人材の確保や講師謝金など運営資源の安定化も必要です。

【様子（写真など）】



マイクラカップ2025エントリー作品と制作風景

学生のyoutubeチャンネル 登録者数568人、再生回数27万回超えの動画もある



学生のシステム開発作品。タロット占いのサイト。ユーザーは1日2回、カードを引くことができる。

木更津高専公開講座

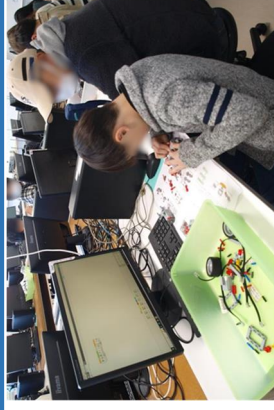
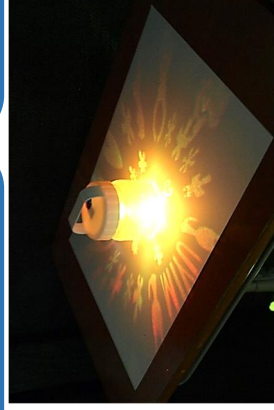
【内容・狙い】

小中学生向けのSTEAM教育、理工系人材の育成の一環として、理科に関する工作や実験をメインに約40年の長期にわたり実施しており、より多くより効果的なSTEAM教育の機会創出を目指している。長期にわたり実施している講座もありながら、新しい講座開発も行っており、様々な体験機会を提供することにより、理工系人材の早期発見へも貢献している。

【コンテンツの内容】

R7年度コンテンツ一覧を示す。コンテンツ総数は16(2部構成の講座は各回で1講座としてカウント)で、定員総数は165名である。

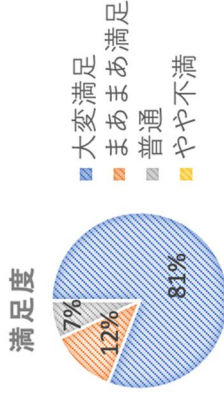
- ・英語で数学を学ぼう (オイラーの多面体定理)
- ・DNAを採取して、見てみよう (AM・PM 開催)
- ・夏休み子ども工作教室 動くおもちゃ、簡単な電子工作など4コンテンツ
- ・LEDランタンを作ろう (AM・PM 開催)
- ・地球環境の変化を衛星画像で解析しよう！
- ・サイバーセキュリティ入門 ～サイバー攻撃を知り守る力を獲得しよう～
- ・光の残像でメッセージを伝えよう
- ・スポーツ×プログラミング『ミッシェンラン』
- ・親子でプログラミング体験～Arduinoでメロディーと3分タイマーを作ろう～
- ・電子オルガンをつくらう！
- ・英語で数学を学ぼう (折り紙一刀切り定理)
- ・風に向かって進む不思議なウインドカーを作ろう！
- ・マインドストームを使ったプログラミング講座
- ・レゴロボットを作ろう！



【参加者の声】

アンケートでは、“分かりやすい説明で原理が良く分かった”、“さらに理解を深めたい”、“とても楽しかった”など、

どの講座も極めて高評価である。右にR5年度～現在までに実施した講座の満足度を示す。



【成果と課題】

過去約40年間の参加者数は約6770名におよび、主に小中学生のSTEAM教育、未来の理工系人材の育成への寄与が期待される。人気の講座は抽選倍率が高く、過去には定員10名に対し56名の申し込みがあり、当選倍率が5.6倍になった講座もあり、人気の講座は受講が難しいといった嬉しい課題がある。現状では、各種イベントにおいて体験の機会を設けるなどの工夫をしているが、今後は参加者数を増やすなどの根本的な対策を行いたい。

事業名：ネイチャーチャレンジ

団体名：千葉県立水郷小見川青少年自然の家

指定管理者：小見川フィールズパートナーズ

1 概要

【期 日】令和7年8月13日（水）～16日（土）3泊4日

【対 象】小学5年生～中学3年生 24名 ※40名が応募し、抽選で24名を決定

【会 場】千葉県立水郷小見川青少年自然の家（香取市小見川5249-1）

【参加者】

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	計
男子	6名	5名	1名	0名	12名
女子	8名	3名	0	1名	12名
計	14名	8名	1名	1名	24名

2 ねらい・内容・方法

○人との関わり方の重要性を学ぶとともに、協調性を培う。

○自らチャレンジすることや積極的に行動することなど、前向きに生きる心を育てる。



	午前	午後	夜
1日目	1.オープニング 2.アイスブレイク	3.仲間づくりのゲーム 4.夕食づくり	5.振り返り
2日目	6.朝食づくり 7.いかだづくり① 8.いかだの試乗（黒部川） 9.昼食づくり	10.いかだづくり② 11.いかだチャレンジ（黒部川） 12.夕食づくり	13.ナイトハイクの説明 14.仮眠 15.起床→ナイトハイク準備→スタート（2:00）
3日目	16.ナイトハイクゴール（9:00） 17.仮眠	18.昼食づくり 19.ファイナルチャレンジ①	20.ファイナルチャレンジ② 21.たき火タイム 22.振り返り
4日目	23.片付け 24.振り返り 25.解散式		



冒険教育の手法によるグループ活動

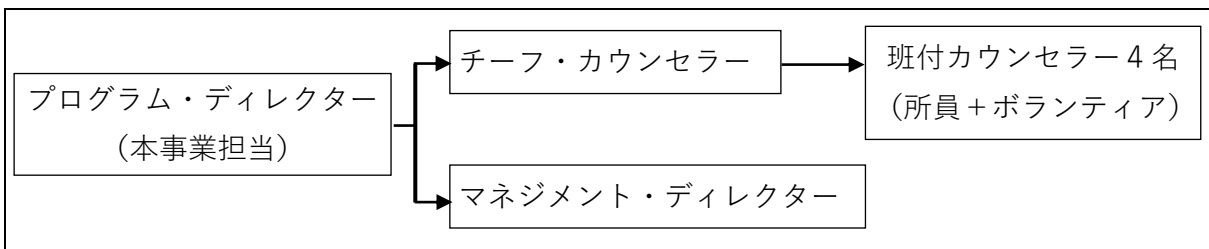
3 企画意図

「新しい仲間」と「ありがとうお互いと言える関係（一人ではできないことを楽しむ）」をつくることをメインテーマにして企画・運営を行った。

【背景】

- ・子ども達は、自分の考えや気持ちを言葉や態度で発信することはできるが、相手の考えや気持ちを受け止めたり、受け止めたことを言葉や態度で表したりすることは苦手な傾向が見られる。
- ・また、発信する際は独りよがりであったり本音を隠したりする傾向が、受け取る際は自分の枠組み本位で解釈する傾向が見られる。
- ・そこで、「みんながいるからできた」「助けてもらう←ありがとう」「助けてもらう⇔助ける」「互いに高め合える、成長し合える」という状況を生み出すプログラムを企画し、それに適した指導方法とした。

4 運営体制



5 事業の様子

【1日目】○グループ活動への意識付け ○規範づくり ○ルールを知る

○「オープニング」では、テーマ「みんなと一緒にいるからこそ、『できた』『ありがとう』を大切にする」ことを伝え、本キャンプの意味を理解させ、活動への意欲付けを行った。

○「安全指導」（心の安全、熱中症等）の後、参加者同士及び参加者とスタッフ間の緊張を緩和し、ゆるやかな関係を作ることを目的とした「アイスブレイクゲーム」を全体で行い、次いで、課題を解決する「イニチアチブゲーム」を班に分かれて行った。活動を通して、徐々に、互いに意見を交わす姿が見られた。

○イニチアチブゲームの延長とも言える（協力してやり遂げる）「夕食づくり」を行った後、一日を振り返り、感想や気づいたことを話し合った。



【2日目】○意見の衝突→納得の解決を（意見がまとまらないことへのフラストレーション）

○「いかだづくり①」では、ロープの結び方を全員に教えた。その後は、子ども同士が関わり合うようにするため、できない子どもにスタッフが教えるのではなく、できない子どもができる子どもに訊き、できる子どもができない子どもに教えるようにした。

○「いかだづくり②」では、早い人が遅い人を助ける姿が見られた。子ども達の会話では「教えてあげる」「ありがとう」という言葉を多く聞くことができた。

○組み立てたいかだを黒部川で浮べ試乗し、その後、手直しをして本番を迎えた。皆で苦労・工夫して作ったいかだを漕ぎ、喜び合う姿が見られた。



【3日目】○チャレンジの日 「慣れ」による良い影響・悪い影響

○1時に起床し準備を整え、2時に「ナイトハイク」をスタート、自然の家から10kmほど先にある「橘ふれあい公園」を目指しグループでまとまって歩いた。本活動は、昼間の熱中症を避ける意味もあるが、夜中に20kmを歩くという非日常的で身体的な負荷が高い体験をやり遂げることで大きな達成感が得られると考えた。ナイトハイクでも、しっかりと役割分担を行い、誰かに求められなくても、自ら考えや思いを伝える姿が見られた。

○9時までに全員がゴールし完歩を喜びあった。



○最後に、ここまでグループで活動し高まった力を発揮する場面として、ファイナルチャレンジとなる「イニチアチブゲーム」（エレクトリックフェンス）を行った。これまでの活動のような身体的負荷ではなくて、課題を達成するために自分の内面や仲間と向き合い葛藤するという精神的に高い負荷をかけることで、今までとは異なる協同の在り方を考えることをねらった。

○「振り返り」で「友達」と「仲間」について問いかけたところ、他者に対して自分ができ

ることや自分が他者から何をしてもらいたいかを言葉で表すことができる子どももいた。



【4日目】〇感謝の気持ちを忘れない

〇4日間使用した場所と道具を片付け、掃除を行った。

〇その後、4日間を個人で振り返り、班で分かちあった後、スタッフから子どもたちにメッセージを伝えエンディングとした。

〇解散式では、保護者も参観し、4日間をスライドで振り返った。

6 参加者の変容と声（事業の効果）

（1）測定方法

①設問:「ネイチャーチャレンジに参加したことによる『心の成長』度合いを教えてください」

②回答: 参加前【1・2・3・4・5・6・7・8・9・10】 } 個人ごとに前後の数値を測定
参加後【1・2・3・4・5・6・7・8・9・10】 } し比較・分析

（2）測定結果: 参加後の選択肢－参加前の選択肢＝絶対値

絶対値	1	2	3	4	5	6	7	8	9
人数	0名	2名	6名	4名	1名	4名	2名	4名	1名

（3）参加者の主な声

- ①学校では体験できないことができた。最初は、知らない人との活動はあまり体験をしたことがなかったので緊張したが、時間の経過とともに友達ができ最後は安心してできた（小5女子）。
- ②疲れたし大変だったけれど、みんなのことを知り仲良くなれて楽しかったから（小5女子）。
- ③様々なものにチャレンジでき、いい経験になった（小5男子）。
- ④たくさん大変なこともあったけれど、やりがいがあり満足！（小6女子）。
- ⑦自分がとても成長したように感じた（小6男子）。
- ⑧疲れたり嫌になったりしこともあったけれど、みんなで協力しあったり助け合ったりすごく楽しかった。だから、やりきった（中2女子）。

7 事業の成果と課題

（1）成果 子ども同士が「話し合って決める活動」「協力したり励まし合ったりしてやり遂げる活動」「活動を振り返る時間」を設定したことで、アンケートや「心の成長度合い」の結果をみると、本事業のねらいを達成することができたと言えよう。

（2）課題 プログラムの精度を高めるとともに、保護者から「SNSに写真を掲載しないでほしい」「子どもの様子を実際に見たい」という要望が事業期間中にあったので、担当者が運営に集中できるよう参加者募集の段階での広報の内容を検討することが課題である。

親子で作ろう！大賀ハスのランタン

事業のねらい

地域で発掘された千葉市の花「大賀ハス」について学び、親しむことで、地域への理解を深め、郷土愛の醸成を図る。



事業の概要

地域ボランティア団体と協働で企画した地域資源「大賀ハス」を学ぶ講座。職場体験の中学生とともに工作の準備を行う。大賀ハスについて座学で理解を深め、ハス池を見学する。その学びをいかして大賀ハスのランタンを親子で制作する。

事業内容

- ・大賀ハスの発掘の歴史、生態を学ぶ。
- ・公民館庭にあるハス池で大賀ハスの花、葉っぱ、茎を見学・観察する。
- ・親子で協力して大賀ハスをモチーフにしたハスランタンを作る。

参加人数等

対象者：地域小学校の児童と保護者
参加人数：16組32人
実施日：令和7年7月30日
実施場所：花園公民館の講堂及びハス池

参加者の声

- ・大賀ハスの歴史が知れて、なぜ検見川で発掘されたのかもわかって、とてもよかったです。
- ・学校で習っていないことを知る事ができたし、ハスランタンも学んだことをいかして作ることができた。
- ・ハスのことに興味がもてるようになった。
- ・ランタンを作るのが楽しかった。
- ・最後にランタンのライトをつけた時、感動しました！

成果と課題

成果 ～地域を学ぶ、ともにつくる～

- ・地域の資源への理解を深め、親しみを醸成。
- ・地域ボランティアや地域中学校との連携強化。
- ・親子で一緒に夏休みを楽しむ場の創出。

課題 ～地域の誇りを未来へ～

- ・単発で終わることなく継続していくことが重要。
- ・将来的には中学生にも企画・運営に全面的に関わってもらい、地域の誇りを未来へつないでいきたい。

地域とつくる



地域を学ぶ



親子でつくる



完成！

最後にハスランタンを点灯。「わぁっ！」と歓声があがりました。



千葉県椿森公民館主催事業

「房総ふらふら散歩」

私だけの映え『花スナップ』を見つけよう！
隠れた史跡や土地の歴史を知れば、
きっとお出かけしたくなる。

きっかけ

R2 年度
コロナ禍の外出自粛の閑寂感がある中、外出しなくても旅行気分を楽しめる講座を作りたい！

歴史講座の講師のプライベートの旅行の話が大変面白く、撮影写真が素晴らしい！



ふらふら散歩の達人
中村 弘史 講師

継続決定

- ★創意工夫
- 千葉市が学生達といっしょに製作した「いずみまるとマップ」を取り寄せ資料に採用。(講師のお気に入り)
 - 「スライドリスト」ナンバー対応マップ作成。
 - 写真パネルを作成し「写真展」も開催。

続編

R4 年度

続編として、県を3つのエリアに分け、「千葉市編」「房総編」「下総編」を制作。

第3回 (2022.11.6) 19人
第4回 (2023.3.5) 18人

★創意工夫

- 千葉県観光協会「観光マップ」を取り寄せ資料に採用。
- 「延期」でも参加してくれた方へオリジナル絵葉書。

アンケートの声
「情報が多すぎて
つめこみすぎる」
「話が駆け足」

改良

R5 年～

3編をそれぞれ「前編」「後編」の全2回に改編。新情報も追加。

第5回 (2024.1.26) 16人
第6回 (2024.5.30/7.11) 45人



会場は、
机が10台なので
MAX20人。

当日講師
体調不良延期

参加者の声
「延期になった後編は都合が悪く参加できない」「抽選に落ちた」
高齢者の当日欠席も多い！

オンラインの導入

R6 年～
千葉市生涯学習センターの協力のもと、講座の様子を録画。欠席者と地域へのYouTube限定配信を実施！

QRコードや
視聴の仕方
も
フォロー！

展開

R7 年

- 要望をうけ他館でも同講座を開催。
- コンサート舞台装飾に写真を使用し好評を得る。
- YouTube 全編配信を広報誌に掲載。
- 「わたしのふらふら散歩レポート」募集。

第7回 (2025.6.28/7.5) 32人
第8回 (2025.10.18,19予定)

成果と課題



隠しテーマは
「ネコ」♪

- 外出しなくても味わえる旅行気分という漠然としたコンセプトからスタートしたが、参加者の声や講師のアイデアを掛け合わせて年々進化ができた。
- ふだんから外出に制約のある高齢者や障がいのある方に対してでも有効な講座であることがわかり、オンラインを使った試験的な運用も試みた。(YouTube 配信の実施)
- 今後は「わたしのふらふら散歩レポート」のSNS活用や、本講座受講者による散歩サークルの結成も視野に。
- 学生がつくる「いずみまるとマップ」との連携や、スピンオフ企画「県外ふらふらわー散歩」の展開も図っていききたい。



誕生

R3 年度

メインテーマを「花」に決め、講師発案のタイトルを採用。2時間の単発講座。

第1回開催 (2021.11.28) 参加17人
第2回 (2022.2.20) 16人

参加者の声

- 近場でウォーキングをしながら楽しめる場所の情報、その上花のベストな時期が分かり希望にぴったりの企画でした！ (千葉市編)
- とにかく写真がきれいで癒されます♡
- 歴史や背景を織り交ぜてあり引きこまれます。(房総編)
- 次はどこへ行こうかなと思いつきながら参加し、だいたいが実行しています。(下総編)
- 千葉県で生まれ育ったが、知らなかったことが知れて大変参考になった。(房総編)
- 昔行った旅行を思い出して懐かしかった。(下総編)



「話」が駆け足

I ♥ CHIBA

われらが『とかいなか』ちばを知る、公民館の情報講座です！

第7回ちば講座アワード事例調書

アースドクターふなばし（edf）

講座事業名：公民館・出前講座 ビンゴ（クイズ）で楽しく学ぼう！ **地球温暖化とSDGs**
～楽しく遊ぼう！ 木製ソーラーカー：工作～

【内容・狙い】

- ・地球温暖化（2015年パリ協定）とSDGs（2015年国連締結）は、グローバルな課題として現在、喫緊な状況にあります。小学生から、その内容を理解し、自分ごととして行動に結び付けることが重要です。
- ・本講座は、このグローバルな課題 **“地球温暖化とSDGs”** を、ビンゴゲーム（クイズ）を利用し、分かりやすく説明し、更に再生可能エネルギー：太陽光発電パネルを利用したソーラーカー工作をすることにより、楽しく自ら考え、行動に結び付くことを狙いとしています。

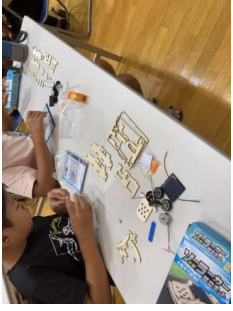
【参加者の声】（アンケートから）

- ・ちきゅうおんだんかをして楽しかったです。
- ・学習自学にも使いたいです。いいことを知りました。
- ・地球温暖化で氷が溶けてしまったり、水面上がったり、熱中症でたおれる人がいたりするのがわかって、大きな課題だと思う。

【成果と課題】

- ・ビンゴゲーム（クイズ）を利用することにより、低学年から楽しく学べる講座が展開できた。また、身近な工作をすることにより、地球温暖化～再生可能エネルギーに興味を持つことが出来た。
- ・講座の中に、WS的なものを取り入れると、更に自分ごととして考えることが出来たかと思う。

【様子（写真など）】



講座名

地球温暖化とSDGs説明

ビンゴゲーム説明

ビンゴゲーム風景

ソーラーカー説明

ソーラーカー工作

edfメンバー

第7回ちば講座アワード実例調書

夏祭り

コットンボールライトを作ろう

団体名 山武地区コトバの教室 保護者の会



講座の概要

①地域で安心して子育てができる環境づくり

地域を軸として家庭と教育が一体となり子育てを支える仕組みを整える。更に支える人たちを支える場や講座を開き、繋がり合える居場所づくり

②子どもの創造性と柔軟な思考の育成

既存の枠組みにとらわれず（イノベーション）を育む講座

互いに学ぶ場であり親子で協力し楽しめるワークショップetc.....

③健全な人格と社会性の優れた人材づくり

地域で育った子どもたちが、いつの日か新しい地域を創り出し
地域を支える人材となれるように
あたたかい場を残していく。



講座事業の内容

①予めボンド水に付け乾かした毛糸を、膨らませた水風船に巻き付ける。
（同じものを10個作る）

②毛糸が重なる部分に少量のボンド水をつけ8分ほど乾かして
水風船を爪楊枝で割る（緊張）

③コットンボールをガーデンライトに括りつけ出来上がり。
・ココが、発見ポイント！

通常コットンボールは丸一日乾かさないと固まらないが予めボンド水に付けて乾かした毛糸を使うことで水風船に毛糸を巻き付けただけでコットンボールが形状記憶され時短にも繋がった。

成果と実績

- ・父親の育児への積極的な参加が多く地域全体の幸福度に繋がった。安心して子育てができる地域であると改めて実感ができ誇らしく感じた。
- ・作業をする保護者の顔を子どもが微笑んで見ていたのがとても印象的であった。
- ・3年連続で講座を開催したことで、毎年来てくれる子どもの成長に喜びと感動を覚える。

今後の課題

- ・生まれ育った土地や人間関係を活かし地域全体で子どもたちを見守り孤立を防ぎ、子どもたちの生きる力を育み楽しい取り組みを継続させ、バトンタッチして行くことが課題である。

参加者の声

- ・可愛く出来たので部屋に飾って楽しんでいます。
- ・子どもと、ゆっくり取り組めたので良かったです。次はいつですか？
- ・一緒に企画する側になりたいので入れてください。etc.....

非常に高い評価をいただけたことは大変光栄であり満足度を得る事が出来た。

子どもたちの「やりたい！」を公民館運営に生かす／

子ども館長プロジェクト

子ども館長会議

●公民館をもっと素敵な居場所にするためのアイデアは？

- ・土気駅から路面電車を走らせよう。
- ・違う学校の子と交流してみたい。
- ・夏休みの自由研究相談会

●文化祭で発表したいことは？

- ・クイズ(土気駅の歴史)
- ・ミニチュア作品の展示
- ・ダンスや歌など、自分たちも発表してみたい。



期 間 令和6年6月～令和7年2月まで。
月1回(全7回)

サークルと交流



↑ハーモニカクラブの演奏を鑑賞後、一緒に歌いました。

目 的 公民館で子どもが主体的に参加できる機会をつくり、
「だれもが集い・学び・楽しめる公民館」にする。

対 象 近隣小学校の1～6年生 8名

内 容 月1回公民館に集まり、子ども館長会議・サークルと交流・体験活動を重ねる。公民館文化祭の中止により、「子ども館長フェスティバル」を企画・運営した。自分たちで体験コーナーを運営、歌や楽器演奏を披露、ハーモニカクラブとの共演を果たした。

成 果

- ① 子どもたちとの関わりにより、シニアが元気になった。
- ② 公民館の魅力を子どもたちの言葉で話し合った。
- ③ 公民館主催事業への関心が高まり、地域の方々から、応援の声が届くようになった。
- ④ 日常的な子どもの来館が増え、子どもたちの居場所として、認識されつつある。

課題・展望 スケジュールや予算面で、子どもたちの発想を十分に実現することはできなかった。「子ども館長プロジェクト」を継続的に取り組み、そのなかで、今後は、公民館のPR大使としての役割を担うような活動を推進していきたい。



12月21日(土)

■子ども館長ふれあい村
(モルック体験や昔遊びコーナー、ミニチュアパンづくり)

■歌と楽器の演奏・
ハーモニカクラブと共演

子ども館長の声

子ども館長フェスティバルの企画・運営



↑歌に合わせて「エイ ヤー！」の掛け声で会場に一体感が生まれました。

■子ども館長に参加してよかったこと

- ・話し合ってみんなで決めたのが楽しかった。
- ・趣味の作品を披露したり、誰かに教える機会がもらえて嬉しかった。
- ・公民館を通して、地域のことが少しわかった。

■次年度の子ども館長で挑戦してみたいこと

- ・公民館のお仕事を体験できるとおもしろいと思う。
- ・公民館に人を集める方法などを考える時間を持つ。
- ・もっと多くのサークルと交流してみたい。
- ・サークル体験・取材報告をまとめてPRする。
- ・周辺まち歩き(昔の様子などの説明付き)
- ・中学生になっても、ボランティアとして関わりたい。

千葉市土気公民館

お月見どろぼう～月の小さな使用者参上！～

【内容・狙い】

【内容】

- 午前中は君亀の施設で十五夜のお話、レクリエーション、お月見どろぼうの練習
- 午後からお月見どろぼうに出発。協力してくれる地元の家からお供え物をもらい、家の方からお月見どろぼうや亀山地域のことについてお話をしてもらう

【狙い】

- 「お月見どろぼう」という風習を残したい、伝承したい
- 地域との結びつきを深めたい



地域の方にお話を
聞く子どもたち



実際にお月見どろぼうを
する子どもたち

【参加者の声】

- とにかく楽しい！また来たい！
- 同じ県内に住んでいるのに初めて知りました
- 自分（保護者）が体験したことがあったので、親子の会話の種になった

【地域の方より】

今は準備をしても子どもも来てくれないことがほとんど。
このイベントではたくさんの子どもの声が聞こえ、賑やかで
良かった



お供えの様子

【成果と課題】

【成果】

- 初めは、馴染みのない風習のためか、緩やかな集客だった。今年（令和7年10月開催分）はちいき新聞の取材の影響力も合わせ即埋まるほど認知度が上がった
- 参加者の満足度も高く、半分以上がリピーター

【課題】

- リピーターが多く、新規参加者の獲得が課題



ちいき新聞より取材を受け9月号に掲載
(令和7年9月5日発行)

事業実施の背景

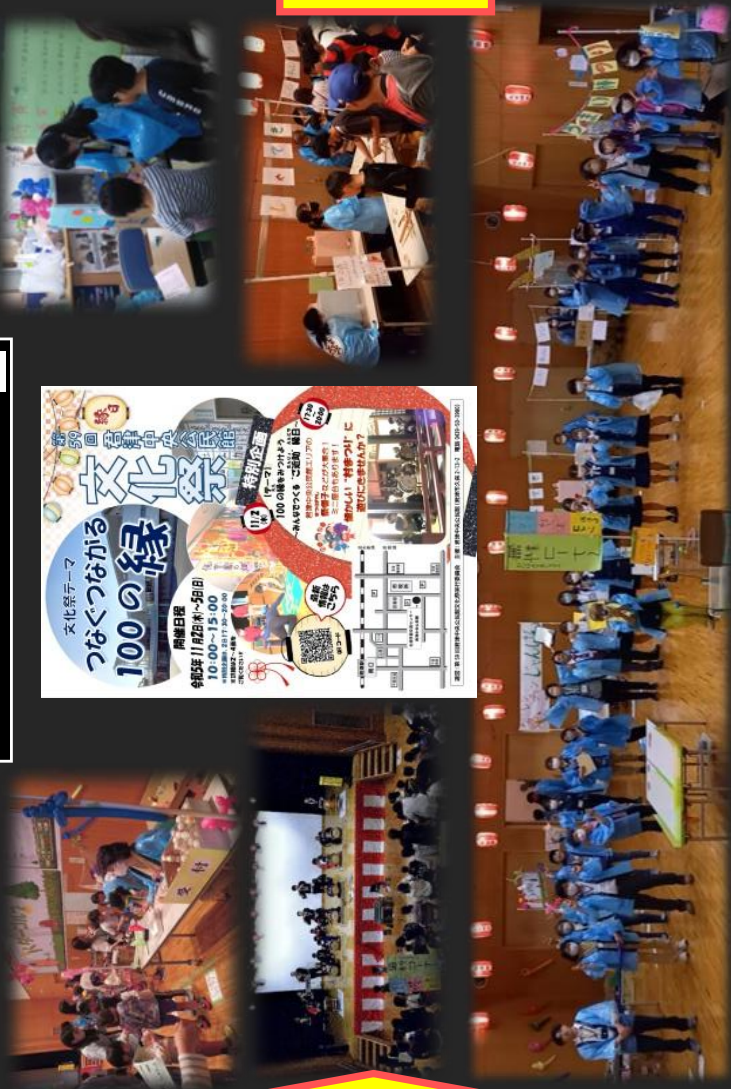


令和4年度文化祭特別企画...コロナから地域のつながりを取り戻す！を合言葉に「超ご近所検定！半徑数キロウルトラクイズ王決定戦」を対面・オンラインのハイブリッドで開催。大成功！

—地域実行委員と次年度作戦会議—
・楽しいイベントで、地域のつながり、助け合いを、さらに深めたい！
・若者の力で地域を明るくしたい！
キーワード「縁」「ご近助」が浮上！
令和5年度は縁日にしよう！

令和5年度 君津中央公民館文化祭特別企画 (令和5年11月2日実施)

100の縁をみつけよう！
ご近助”縁日”
みんなであつくる



縁日からの新たな一歩
縁日からの継続参加ボランティアの力で新たな「ご近助事業」スタート！

地域の障がい者支援施設と連携した、助けあい・支えあい「あいあいカフェ」。施設のパン・お弁当とボランティアによるドリンクコーナーを楽しめるカフェ。ほぼ毎週木曜日、ロビーで開催中！



ボランティアがサポーターになることで障がいのある人も参加しやすい

事業もスタート。
令和5年度はダンス、令和6年度は運動とモノづくりに挑戦！



—縁日の目的—
地域の助けあい・支えあいの縁を実感する行事を通じて、地域のつながりの再生・創造の契機とする！

—縁日の概要—
中高生&大人計約50名のボランティアで、館内に射的、鬼のまと当てなど手作り屋台が並び縁日を再現。

地域の神社からお借りしたたくさんさんの提灯で館内全体をライトアップ。舞台では地域のお隣子保存会数連によるお隣子を上演。

「地域のお祭り展示」で地域のPRも。フードバンク、ミニ子ども食堂も開催。予算ほぼゼロ。スタッフの青ハッピーもゴミ袋で手作り！

—縁日、してみたら—
3時間で約800名来場。縁日の収益とフードバンクは社会福祉協議会に寄付し「小さなご近助」実現！

地域の人も大喜び。ボランティアメンバーから「また何かいろいろやってみたい」と声が上がり、縁日から新たな一歩が始動！

みんなのこえ

地域・ボランティアから喜びの声多数。「コロナで活動終了も考えたけど、元氣を取り戻せた」と、お隣子保存会から活動復活の声も。

せい か

縁日大成功！多くの若者に身近な地域参加への契機を提供でき、新しい事業への発展も見られた。
...けど...「かだい」に続く...

か だ い

...でも、まだ一番の目的である「地域のつながりの再生・創造」の入口に立ったばかり。「本当の成果」に向けて、新たな挑戦が必要。

これから

縁日は翌令和6年第2回目の実施&成功でひと区切り。令和7年は、また新たな企画で地域のつながりの再生・創造にチャレンジ中！





名業事座講

アビコでも学び隊

「好きな「体験」と、「好き」や「夢」に生かす学びの場——様々な「体験」に生かす学びの場——

目的とならんと講座の様子

子どもたちがさまざまな「体験」と「好き」や「夢」に出会える学びの場を提供しています。学校や家庭では得られにくい多様な体験を「我孫子の持つ豊かな人材と環境を活用し、それらの知識・知恵・技術を提供することと、以下のような力を育てます。

知的好奇心を広げる



科学実験や最新技術
(AR)、伝統工芸、芸術
体験など、幅広い分野
の講座を通じて、子ども
たちが「もっと知りたい」「
挑戦したい」という気持
ちを育て、将来の学び
や進路選択につながる
きっかけを作ります。



人とのつながりを深める

大学教授や専門
家、市民団体の多
々など、地域の多
世代と出合い学ぶ
ことで、豊かな人
間関係や社会性を
身につけます。子
どもたちは「自分も
てる」という憧れや

自信と主体性を育てる



作品を作り上げる、仲間と協力する、新しい挑戦に取り組むなどの経験を重ねることで、「自分にもできた」という達成感や自己肯定感、学習意欲や挑戦心



講師や団体、保護者が協働して講座を支えることで、地域全体に「子どもを育てる」意識が広がり、教育文化の土壌を豊かにします。結果として持続的な学びの環境が実現します。

参加者の言

参加者の声



【友禅染・美の文化】

- ・同じ柄でも色で印象がガラリと変わって面白かった。
- ・日本の伝統的な染めを知ることができて良かった。



【君の勇気が命を救う】

- ・本当に倒れている人を見たら、勇気を持ってAEDを使いたい。
- ・AEDは誰でも使えて、自分にもやれるという勇気が少しもらえた。



【白黒つけよう！ガラスのうわさ】

- ・カラスのうわさなど、いろいろなこと
- ・鳥のことをもっと勉強したい。

成果と課題

成果

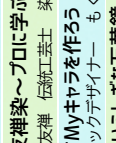
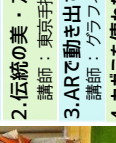
- ・継続性と規模：平成23年度から10年以上にわたり継続、年間延べ数百人が参加
- ・教育の多様性：科学・文化・自然・ICT・救急など幅広い分野を網羅
- ・地域連携：地域で活躍する市民団体・専門家との協働が相付き、地域教育力の強化に寄与
- ・子どもの成長：協力・創造・挑戦する経験を重ねること、主体性や自信が育まれている。

課題

- ・ 人気講座への応募集中：定員の10倍を超える応募があり、参加機会に偏りが生じている。人気分野の受け皿を広げる工夫が求められる。
- ・ 抽選方式による参加制限：ほとんどの講座で定員超過となり、何度応募しても抽選により参加できない子どもも出ている。より多くの子どもが参加できる仕組みの検討が必要である。

講座の内容と講座の様子

科学・文化・芸術・スポーツ・地域学習など多彩なジャンルで構成され、子どもたちの興味関心を広げる内容になっています。単なる“体験”にとどまらず、子どもたちが「なぜだろう？」「やってみよう！」と感じられる工夫が随所に施されています。

科学体験	伝統文化	スポーツ	令和7年度講座一覧
 「わくわくおもしろじゅけん」「光の実験」などで、身近な現象を楽しく学び、科学への興味を育めます。	 「友禅染体験」「和菓子作り」「カガミを使わない万華鏡」に挑戦し、日本の美や食文化を体験します。	 「ニュースポーツ体験」で、協力や挑戦の楽しさを経験します。	1. わくわくおもしろじゅけん 講師：東京理科大学 特任教授 佐野 史尚さん 7/5 2. 伝統の美・友禅染～プロに学ぶ日本の技～ 講師：東京手摺友禅 伝習士 染谷 洋さん 7/22 3. ARで動き出すMyキャラを作ろう 講師：グラフィックデザイナー もくさん 7/24 4. カガミを使わないふしぎな万華鏡 講師：万華鏡作家 村越 通浩さん 7/25 5. 君の勇気が命を救う～算まれ！未来を救うキッズ救急隊～(小学1年生～4年生) 講師：我孫子市消防本部職員 7/29 6. 白黒つけよう！カラスのウツサ 講師：我孫子市鳥の博物館学芸員 望月 みずきさん 7/31 7. お金の大切さを学んで貯金箱を作ろう 講師：金融経済教育推進機構 竹元 泰子さん 8/1 8. 睡眠中の夢とココロ～今すぐ眠りたくなる夢の話～ 講師：東京大学社会学部教授 松田 英子さん 8/4 9. 君の勇気が命を救う～救おう！アピコ未来～(小学5年生～中学3年生) 講師：我孫子市消防本部職員 8/5 10. メタカのヒミツと生命の不思議発見～顕微鏡で観察しよう～ 講師：東京大学 准教授 尾田 正二さん 8/7 11. 光の大研究～「にじいろラタン」を作ってみよう～ 講師：電力中央研究所 池田 研介さん 8/8 12. 氷と雪の世界を知ろう！～南極観測隊と南極の気象観測～ 講師：第57次南極地域観測隊 藤原 宏章さん 8/19 13. みんなで挑戦！ニュースポーツ 講師：我孫子市スポーツ推進委員 岡島 洋次さん 8/22 14. 和菓子作りで挑戦！～「栗きんとん」と「ゆめきり」～ 講師：菓子工房 稲一 池田 尚史さん 11/22 15. インで作るクリスマスツリー 講師：我孫子市ハンコ工房男塾 松崎 忠さん 12/6 16. My望遠鏡で月をみよう！～惑星や銀河系の天体も観測～ 講師：東京理科大学 林 直司さん 1/24

受診サポーター養成講座

【内容・狙い】

患者さんと医療機関との間に立って、患者さんの不安に寄り添い、在宅で支援している方々へつなぐために、千葉市との協働事業で誕生した「受診サポーター」と、連携ノートを介して患者さんと医療と在宅介護をつなぐ「受診サポートの仕組み」の周知を目的とし、また、受診サポーターとして活動する方を確保すること狙いとして養成講座を開催いたしました。養成講座では、傾聴・コミュニケーション技術・ありのまま記録することを学んでいただきます。

【参加者の声】

- ・盛りだくさんの内容で充実した研修だった。
- ・ロールプレイが楽しかった。自分のくせややりがちな事を感じることができた。
- ・患者さん・家族・身体の事など理解しながらのサポートは大変だがやりがいのある仕事だと思った。

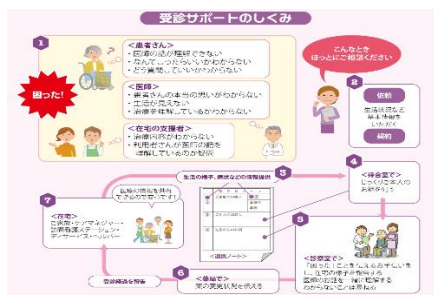
【成果と課題】

成果としては、患者さんから、患者の立場に立った第3者が間に入ってくれることは貴重だという声、患者さん家族からは、「先生への聞き方が参考になった」という声、在宅の支援者からは、医師の話をもっとよく橋渡ししてくれるという声をいただいた。医師から、受診サポーターの理解が得られ、受診サポーターの認知度が上がり高評価を頂いた。

また、受診サポーターとして患者さんに寄り添い、医師や在宅につなぐという役割が果たせたと感じている。

課題として、通院介助の依頼が増えている中、受診サポーターの需要、重要性は大きい「受診サポートの仕組み」の周知ができておらず、また「受診サポーター」の人材が非常に少ない。養成講座により人材確保が一番の課題と考える。

【受診サポートのしくみと講座の様子】





講師と真に交流できる認知症関連定期講演会(参加費無料)定期開催 ～各研究分野の第一人者を招聘、直接交流が可能～

設立以来十数年、間断なく開催の年2回の市民対象の定期講演会

- ◆防ぎうる認知症にならない社会づくりを目的として設立した当団体の事業の柱「認知症予防の啓蒙と普及」事業の一環として、2008年の法人設立以来、年2回の一設立記念・クリスマス講演会を継続開催。
- ◆コロナ禍でもオンライン開催にて中断せず、諸規制を逆手に取り、招待講演講師として各分野研究の第一人者を福岡県、兵庫県、島根県、宮城県等の遠方から招聘。

当団体講演会の特長：「講師と視聴者との交流」にひと工夫を加えて、理解を深める

- ◆講演会プロトタイプは①招待講演+②基調講演(講師：当団体理事・所長)+③両講師の対談+④講師と視聴者との交流会。
- ◆コロナ禍は勿論オンラインでも実施、明け後は単なる茶話会ではなく、講師達との直接の会話や質疑応答はもとより、ミニワークショップや体験など、共に考え、体感する企画も加え充実。

男女共70歳代がボリュームゾーン、生涯学習向学心・認知症予防意識の高い40～90歳代が共に学ぶ場

- ◆柏市フレイル予防ポイント事業(H6終了)としても開催、当団体賛助会員・リピーターに加えて、出講等を機に、志を同じくする柏シルバー大学院生、千葉県生涯大学校卒業生、柏シニアクラブ連合会、柏市フレイル予防サポーターのメンバー等からの視聴者も増加、連携の輪も。今後も継続して知見共有の場、連携・協働のツールになることに努めたい。



July 15, 2025



December 03, 2024



August 20, 2024



December 05, 2023



積極的に参加者の輪に入って下さった講師と、講話のテーマ最新の認知症早期発見のシステムプランについての話が盛り上がる参加者。講師の実験に参加したい！という声も



社交ダンスもプロ級で中高年への指導歴もある講師のキレのあるダンスデモの後、講師の指導で参加者が(男性も!)果敢にトライ、皆が笑顔に



講演会開始前に配布された付箋に参加者が「ありがたい老い、避けたい老い」等について記入。項目ごとにホワイトボードに貼付けし、講師達と討議、歓談するミニワークショップ

歴代の招待講演講師(所属等は当時)

08.2019	国立長寿医療研究センター 島田裕之先生
08.2020	理化学研究所 渡辺恭良先生
12.2020	認知症予防学会副理事長 西野憲史先生
07.2021	理化学研究所 西道隆臣先生
12.2021	認知症予防学会理事長 浦上克哉先生
08.2022	国立長寿医療研究センター 島田裕之先生
12.2022	慶応義塾大学医学部精神神経科学教室 三村純先生
08.2023	東京大学高齢社会総合研究機構 飯島勝夫先生
12.2023	国立長寿医療研究センター 島田裕之先生
08.2024	東京大学名誉教授「失敗学」提唱者 畑村洋太郎先生
12.2024	北陸先端科学大学院大学教授 西村拓一先生
07.2025	量子科学技術開発研究機構イメージングセンター・大阪公立大学 樋口真人先生

概してややネガティブに感じがちな認知症に関する講話だが、今回の先進的なプランや技術の話には、明るい未来を感じることができた。淡々とした講話や交流会で、講師の熱い思いを実感できた

中年とおぼしき講師のキレキレのダンスに圧倒された。誘いに乗って、やってみたらとても楽しく、身体も自然に動いて、これいいなど。こんなに楽しい笑顔が溢れた講演会では初めて!!

初めてのワークショップで、戸惑ったが、思いのままを書くことにした。参加者それぞれの思いを共有できたことは楽しかったし、参考になった。私より年長の人達の意見がとても積極的なことに、何よりも驚かされた。それに、皆さんとても若々しく見えた

講演会は公式YouTubeにて公開中 https://www.youtube.com/channel/UCz7L-TE_oqgoLORFqNoloZA

NPO法人ほのほの研究所(柏市) <http://www.fonobono.org/>

超高齢社会の課題である「認知症」を、高齢者を中心に全世代と共に考え、「防ぎうる認知症にならない社会」の実現を目指し、会話支援手法「共想法」の実践研究と普及、認知症予防啓蒙のために、平均年齢80歳以上の人生ベテラン世代と、認知症予防開始適期40～50代の多世代が活動しています。「共想法」とは、出題されるテーマに沿って写真を撮ってきて持ち寄り、写真を見ながら「話す」「見る」「聴く」「考える」を意識的に行う会話支援手法。雑談と比べて、加齢と共に低下しやすい、言葉を取り出す時に必要な認知機能:言語流暢性が向上するというエビデンスが得られています。コロナ禍以降は、参加者と市民研究員がコロナ禍に、オンラインのみで当時者目線でオリジナル開発したビデオ電話機能のある遠隔共想法スマホアプリを使って、自身のためだけでなく、認知機能を気遣うご夫婦等、九州・近畿地方在住のメンバーも交えて在宅で共想法を実践しています。

第7回ちば講座アワード事例調書

成田市社会福祉協議会

ア 講座の狙い

小・中学生を対象に、ボランティアを身近に感じてもらいボランティア活動に興味を持っていただけるような講座を企画し、次世代ボランティアの育成につなげる。

本件については、未来のおもちゃドクターを養成することをねらいとし、電子回路づくりの講座を開催。

講師には成田市においておもちゃクリニック活動を行っている皆さんに協力いただいた。

イ 講座の様子

前半は講義、後半は実践形式で電子回路を作成。始めの講義はおもちゃドクターから実際に活動している様子ややりがい、ポイント、気を付けている事等、現役のドクターならではの体験談を聞くことができた。実践では4つのグループに分かれて参加者3、4名に対し講師が1名ついて質問しながら取り組んだ。参加者は夢中で取り組み、最後は全員が2種類の回路を完成することができた。

講座が長時間だったものの集中力を切らさずに取り組んでもらえた。工夫して応用し、楽しむ子もいた。LEDを踏み切りに見立てるなど子どもの発想の柔軟さに驚いた。

男10名、女4名の計14名が参加した。

ウ 参加者の声

- ・チカチカする仕組みが分かって良かった。
- ・回路についての知識がついてわかった。
- ・きたいもちゃんとおもちゃを作れたしすごく楽しかったです。
- ・LED回路を作るのが楽しかった。1つ光らせるだけでもこんなに工程がいるんだなと思った。
- ・回路の構造が少し難しかったけど楽しかった。
- ・LEDチカを完成出来てうれしかった。
- ・LEDを使って電子回路を作るのが楽しかった。
- ・LEDの回路が複雑だったけど楽しかった。
- ・とてもいい説明してくれてありがとうございます。とても楽しかったです。
- ・難しい話もいっぱいあったし、細かい作業がいっぱいあって色々なことが知れたから面白かった(楽しかった)。
- ・話しが難しかったけど、回路が完成してうれしかった。
- ・電子回路を学べてよかった。
- ・実技が一番楽しかったです。さらに私はおもちゃドクターになりたいと思いました。待っていてください、つるさん!! (講師)
- ・私にとっては少しむずかしかったです。またチャンスがありましたらご指導お願いいたします。

エ 成果と課題

電子回路に触れることが初めての子が多く、楽しんで参加していただけた。

アンケート結果からも内容が難しかったという声が多かったが、実際に手を動かすことで理解につながったようだった。

子どもたちの心に残る取り組みをして、5年後10年後のボランティアに繋がればという思いがあったが、参加者(小学5年生)のなかにおもちゃドクターに興味があるという子がいて、「成田おもちゃクリニック」のグループのメンバーとなる。小学5年生のおもちゃドクターは70代・80代の先輩ドクターと一緒に現在、活動している。

次世代
ボランティアスクール

「未来のおもちゃドクター」養成講座

～電子回路の基礎を学びLED回路を作成～

募集中

日時: 令和7年 **7月31日** (木)

10:00～15:00 (★昼食休憩 12～13時)

場所: 成田市保健福祉館 会議室 1・2

講師: ボランティアグループ「おもちゃクリニック」

内容: 簡単な電子回路を作ってみよう

対象: 小学校高学年から中学生

定員: **15名** (成田市民優先で先着順)



受講料: 無料

申込: 7月1日(火)～7月24日(木)

定員になり次第〆切

持ち物: 水筒、お弁当(昼食時の外出可)

会場で昼食をとることも可能です

その他: 当日9:50集合です(時間厳守)



初めてでも大丈夫!
現役のおもちゃドクターが
丁寧に指導してくれます



お申込み・お問い合わせは

成田市社会福祉協議会 ボランティアセンター

TEL0476-27-8010 受付時間 9時～17時(平日)

第1回ふつつ検定 ～ めざせふつつマスター ～

ふつつ検定とは？

富津市の歴史・文化・自然・観光・産業などに関する知識を問う択一式のテストとして令和6年からスタートした。（継続事業）

問題集（回答は未掲載）を事前に市ホームページで公表し、その中から抜粋して出題する方式で、初級・中級・上級の3つのレベルを設定し、それぞれのレベルの基準点を満たした方を合格とし、認定証と記念品の贈呈を行う。



認定証・記念品

ふつつ検定のねらい（地域課題）

富津市では、令和4年に総合的なまちづくりの指針となる、「富津市みらい構想」を策定し、次世代を担う若者たちをはじめ、多くの方々に富津市に住み続けたいと感じてもらえるように、「誇りと愛着を持てるまち ふつつ」を市が目指す将来像とした。

この将来像の実現に向け、身近な方法でアプローチする方策の1つとして、「ふつつ検定」を実施し、受験に向けて富津市の地域資源や歴史などの魅力について学習してもらうことで、市への誇りや愛着を持ってもらうことを目的とする。



多くの方が受験してくれました

第1回実績

実施日 令和7年2月23日（日）
実施場所 富津市中央公民館
対象 どなたでも（市内・市外在住を問わない）
受験者数 128名（9歳～81歳）
費用 無料

例題

富津市の方言「うっちゃる」の意味は次のうちどれか。

1. 売る 2. 買う 3. 放る 4. 拾う 5. 打つ
答え：3

受験者の声

- ・この検定の事前学習を通じて知った場所がたくさんあるので、実際に足を運んで理解や愛着を深めたいと思う。
- ・親子で挑戦し、家でクイズを出し合ったり、名所を見に行ったりできて楽しく取り組むことができた。
- ・市内でも自分の住んでいる地域以外のことはほとんど知らなかったが、今回の検定を機会に知ることができた。

成果と課題

- ・受験者の9割以上が「ふつつ検定を通じて、富津市のことが好きになった」とアンケートに回答した。
- ・20歳未満の受験者数が全体の8%と低かったため、小中学校へ出張してふつつ検定を実施することとしている。

取組の工夫点

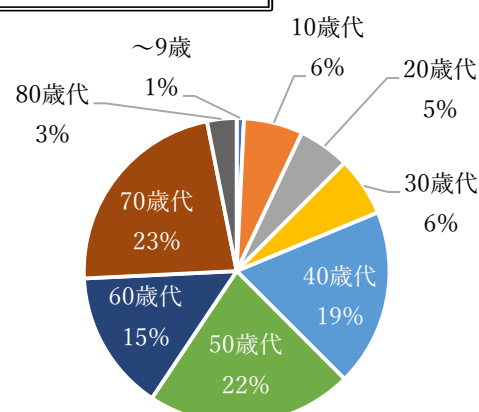
富津市に関することを多分野から、分かりやすい学習とするため、市のホームページ内から出題することとした。

問題集の各設問には回答を掲載しているページへのリンクを貼っており、リンク先のページを読み解くことで回答にたどり着く仕組みとしている

この学習方法により参加者は市のホームページを巡回し、熟読することになる。

事前学習が web 上で完結することで費用の節約になっている。

年齢別受験者の割合



郷土の歴史～長沼さんぽ～全2回 令和3年度から継続して開催

1 さんぽ（地域散策）10/31（木） 2 講話 11/7（木）
9:30-12:00 10:00-12:00（千葉市指定文化財）

駒形大仏



対象 成人 定員 20人 応募者 16人 講師 長沼郷土歴史クラブ

ねらい・内容

- さんぽ（地域散策）と講話で身近な地域の歴史風土をまなび、市民1人1人が郷土意識を高めるきっかけづくりとする。
- 徳川3代将軍ゆかりの地を長沼で生まれ育った名物ガイド（長沼郷土歴史クラブ）とめぐり、より詳しい身近な歴史に触れ、郷土への愛着を深める。
- 令和4年度は、さんぽ（地域散策）のみで開催。令和5年度からは、さんぽ（地域散策）に講話（地域の暮らし、特に信仰や風習）を加え、さらには講座の開催に合わせて1週間ほど、館内ロビーで講師が代表をつとめる「長沼郷土歴史クラブ」長年調査や収集した資料を展示し、講座の参加者はもちろんのこと、サークル活動や図書室利用などの来館者にも身近な歴史について知ってもらえるよう働きかける。

1 さんぽ（地域散策）長沼で生まれ育った名物ガイドと徳川3代将軍ゆかりの地をめぐる

草野公民館 正面口（集合）

- （1）奥之院・馬頭観音（3代将軍家光の愛馬が眠る）
 - （2）御瀧神社（おたきじんじゃ）（家康が来た）～御成街道
 - （3）駒形大仏
 - （4）長沼コミュニティセンター（休憩）
 - （5）庚申塔（こうしんとう）
 - （6）三社大神（さんしゃだいじん）～（長沼）遊歩道
- 草野公民館 講堂（解散）



2 講話 長沼の民俗 風習や信仰について理解を深める

- （1）長沼新田
- （2）掛け軸
- （3）オビシャ
- （4）観音堂
- （5）三山講
- （6）子安講
- （7）祝い事と行事
- （8）歳時記



※資料展示 講座の開催期間に合わせて館内ロビーで、令和3年度は図書室資料展示（千葉の歴史・千葉氏など）を開催。4～6年度は長沼郷土歴史クラブがこれまでの活動で調査、収集された資料を展示した。



参加者の声

- ・地元に大仏があるなんて全く知りませんでした。新しい発見があり大変参考になりました。
- ・長沼の町の歴史が、史跡めぐりと講座の組み合わせで詳しく学べました。感動しました。
- ・住民の団結に信仰が大きな力をもっていたことが良く分かりました。講師の話が、素晴らしかったです。
- ・毎朝、奥の院をお参りしてますが、由来が良く分かって良かったです。
- ・20年近く園生町、長沼町に住んでいましたが郷土の歴史を学びながらの散策、今までの散歩と違い、目からうろこでした。参加させて頂き本当に良かったです。

成果と課題

1 回目のさんぽ（地域散策）は天候にも恵まれ、講師と助手による丁寧な説明により、身近な歴史について実体験をとおして詳しく知ることができ、参加者はみな満足している様子が見えた。2 回目の講話に向けて1 回目の講座終了時に、通常のアンケートとは別に、長沼の歴史について知りたいことやさんぽの感想を取りまとめ、講師に伝えた。2 回目の講話で、丁寧にご回答をいただき、参加者にもその点ご満足いただけた。

2 回目の講話では、一方的に講師が講義するのではなく、間に参加者からの質問を交えながらすすめる形式とし、会場セッティングを工夫した。会場には、講話に関係するたくさんの資料を展示していただき、講師や長沼郷土歴史クラブの長沼（郷土の歴史）に対する熱意も今まで以上に感じられ、今後も継続して開催していく事業と再認識した。今後も身近な歴史について知る機会を提供するとともに、地域にある駒形大仏を地域でしっかりと継承するべく公民館サークル活動で墨絵で描くなど、関連事業として展開していけたらと考える。

ぼくらの居場所@流山エルズ

痛バッグ&チャームを作りながら、推しについて語ろう！

【内容・狙い】

小学4年生～中学生・高校生を対象とした夏休み期間限定の青少年居場所事業を開催し、その居場所事業として4つの企画を開催。その中の1つが、「痛バッグとチャームを作りながら推しについて語ろう」という企画。この事業のポイントは「中学生くらいの高学年の年齢が参加しやすいこと」「大勢とのコミュニケーションが苦手な子も参加しやすいこと」「中学生や高校生等の年代にも響くもの」を大切にしながら、各々の「推し」に由来するグッズ作成を共通の場で行い、その推し（例：アニメ、VTuberなど）の好きなのところを、会話しながら、お互いの推しについてコミュニケーションをすることが最大の目的。ものを作ることから、青少年のコミュニケーションを生ませることが最大の狙い。講師には流山市青少年指導員でクリエイターアティストの秋山ちなみ氏に指導を依頼。チャームの作り方を指導しつつ、参加者の推しについてファシリテーターの役割も果たす。夏の居場所として、中高校生が参加する土壌が生まれたことがこの事業の意義である。

【参加者の声】

- ・初めて会う人と自分の推しについて話しながら、バッグが作れてうれしかった
- ・先生に自分の推しについて「素敵だね」って言ってもらえてうれしかった

【成果と課題】

これまで青少年向け事業（特に中学生以上）の参加は非常に少なかったが、今回は参加者を6人も確保でき、青少年居場所事業として一つの可能性を感じた。定員15名のところ、参加が6名だったのは、2日間両日とも参加する条件が困難だった可能性もあり、次回は1日開催でできるよう工夫が必要。だが、2日間あったため、きめ細かなコミュニケーションやファシリテーションができた。

【様子（写真など）】





ぼくらの居場所

@流山エルズ

小学4年生～中学生・高校生が対象のこの事業は、夏休みの期間エルズを有効活用する居場所事業です。

涼しいお部屋で勉強するための「自習室」、体育館での軽スポーツで気分転換！「UNO」「犯人は誰る」などの

ボードゲームで対戦！痛バッグを作りながら、推しについて語ってみたり！ひとりのんびり過ごす夏休みもいけれど、

エルズのスタッフや豪華講師と一緒に居心地のいい「ぼくらの居場所」を体験してみよう。

🕒 時間 🧑 対象 🎒 持物 💰 料金 🧑 講師

7/24～8/31

夏限定★ひるま自習室

エルズのパソコンルームを自習室として開放します。

※コンセントやWi-Fiは無料で使えますが、パソコンの貸出はしていません。

🕒 7/24～8/31まで 毎週木・金・土・日曜日 9:00～16:00

🧑 小学4年生～中学生・高校生 定員6人

🕒 1時間ごとに受付・先着順

💰 無料

8/5(火)

体育館でPLAY! ラケットスポーツ / テニピン / ミニテニス

涼しい体育館で、テニピンやミニテニスで身体をうごかそう。

ガチなスポーツではなく、ゆる～い気分でラケットスポーツを楽しみましょう！

🕒 13:30～15:00

🧑 小学4年生～中学生 定員10人 **※要申込**

🎒 室内履きシューズ、タオル、飲み物

💰 無料



左の二次元コードから各ワークショップの
予約受付フォームを開いて申込みをしてください。

[URL] <https://nagareyama-shougakukakushucenter.jp/event/>

8/19(火)・22(金)

痛バッグ & チャームを作りながら、推しについて語ろう！

痛バッグとは、推しへの愛情を表現するバッグのこと。クリエイター・秋山ちなみ先生をお迎えし、あなたの推し活グッズ作りを秋山ちなみ先生がサポートします。どんな作品にするかは、あなた次第。目的の痛バッグを作りながら推しへの愛を、語らしましょう。

🕒 9:30～11:30(2日間で作成・実施)

🧑 小学4年生～中学生・高校生 定員15人 **※要申込**

💰 材料費として2000円

🧑 秋山ちなみ (クリエイター・アーティスト)

8/27(水)

ボードゲひろば～ボードゲの神を召喚！～

エルズ生協では初のボードゲひろばを開催します！

ボードゲとは、UNOやジェンガなど、テーブル上でプレイするボードゲームをいアナログゲーム全般をやるひろばです。今回は、世界中のボードゲのコレクションでもあり、ラコルタ地でもボードゲゲームスペースを運営している影山貴大さんが登場！いろんな面白ボードゲゲームをご用意します。ボードゲゲームが大好きでなくて大丈夫なので安心してね！

🕒 14:00 開場 16:00 閉場 (時間内出入り自由)

🧑 小学4年生～中学生・高校生 定員10人

💰 無料



お申込後のキャンセルは全体運営に支障が出るため、当日の体調不良を除きご遠慮ください

聖徳大学オープン・アカデミー（SOA）公開講座

聖徳OGが贈る♡介護のコツを知って、 楽しく〈快互〉（かいご）を目指しましょう！

令和7年度第Ⅰ期 開講日時・テーマ・受講者数

A	5/17（土）	10：30～11：55	移動の介護①
B	5/31（土）	10：30～11：55	移動の介護②
C	6/14（土）	10：30～11：55	移動の介護③
D	6/28（土）	10：30～11：55	排泄の介護

※会場はA、B、C、Dすべて聖徳大学キャンパス

楽しく〈快互〉を目指しましょう

車いすの扱い方 簡単な散歩まで

福祉用具を使って移動体験

受講者13名

受講者14名

受講者14名

受講者16名

講座のねらい・内容

介護を“負担”から“快互”へ 知る・体験する・安心につながる講座

本講座は、本学の心理・福祉学部 社会福祉学科で培った知識と教育内容を、地域の方々へ広く還元する取り組みとして実施しています。

コーディネーターは社会福祉学科の池田静香教授、講師は全員、本学の卒業生で、介護現場で活躍する介護福祉士が務めます。

学内の実習室を活用し、受講者は実際に体を動かしながら、福祉用具の使い方や介護の基本的な知識と技術を学びます。

アットホームな雰囲気の中で実施されるため、受講者は日常の介護に関する疑問や不安を気軽に相談でき、現場経験を持つ講師から実践的な知識を得ることができます。

この介護講座は令和元年にスタートし、今年で7年目を迎えました。これまでに延べ330人が参加し、毎回「不安が軽くなった」「すぐに役立つ内容だった」といった声が多く寄せられています。介護に前向きな気持ちで取り組めるよう支援し、地域社会に安心と学びを提供する講座です。

なお、今年度は、異なるテーマで、秋（10～11月）2回、冬（1～3月）3回の講座を予定しています。



受講生の声

- ・今日のように楽しく、表現力豊かな講義をきけると、介護も楽しくなるのだと勇気をもらいました。
- ・介護は急にやってくるので不安でしたが、最低限必要な情報を学べて満足できました。
- ・介護現場での実践について具体的に教えていただき、とても参考になりました。
- ・福祉用具などの道具も実際に見てふれられ、とても参考になりました。
- ・相手の気持ちをプロの視点から具体的に教えていただけたので、声かけや動作の大切さがよくわかりました。

成果と課題

今後ますます需要が高まる「介護」に関して、受講者の悩みや不安を解消できる機会を提供し続けていることが、本講座の大きな成果です。また、大学の教育内容を地域に還元する社会貢献型の講座として、地域に定着しつつある点で好評をいただいています。一方で、体験型講座を実施しているため、内容によっては受講者の人数に制約があり、参加できない方が出ることが課題です。今後は、同じ内容で回数を増やすなど、多くの方に学びの場を提供できるよう改善していきたいと考えています。